



いなん 伊南バイパスが全線開通します

1. 概要

国道153号伊南バイパスは、長野県上伊那郡飯島町本郷から長野県駒ケ根市赤穂に至る延長9.2kmのバイパスで、平成26年度までに7.4kmが2車線で開通済みです。
このたび、残る1.8km(2車線)が開通し、全線開通となります。

開通区間： 国道153号 伊南バイパス

長野県上伊那郡飯島町田切中央交差点

～長野県駒ケ根市辻沢交差点の延長1.8km【別紙1】

開通日： 平成30年11月17日(土)

※当日の開通時刻、開通式典等については、後日お知らせいたします。

今回の開通によって、次の効果が期待されます。

- 効果①：地域間の利便性の向上 ～バイパス沿線に店舗が立地～ 【別紙2】
- 効果②：救急活動の支援 ～安全かつ迅速な緊急搬送に貢献～ 【別紙3】
- 効果③：安全な交通の確保 ～現道区間の交通事故減少～ 【別紙4】
- 効果④：通学時の安全性が向上 ～国道153号の大型車減少～ 【別紙5】
- 効果⑤：物流の効率化 ～線形不良区間の回避～ 【別紙6】

2. 資料配付先

長野県会見場、飯田市役所記者クラブ、駒ケ根市役所記者クラブ

3. 問い合わせ先

国土交通省中部地方整備局飯田国道事務所

副所長 松居 健 計画課長 岡本 由仁

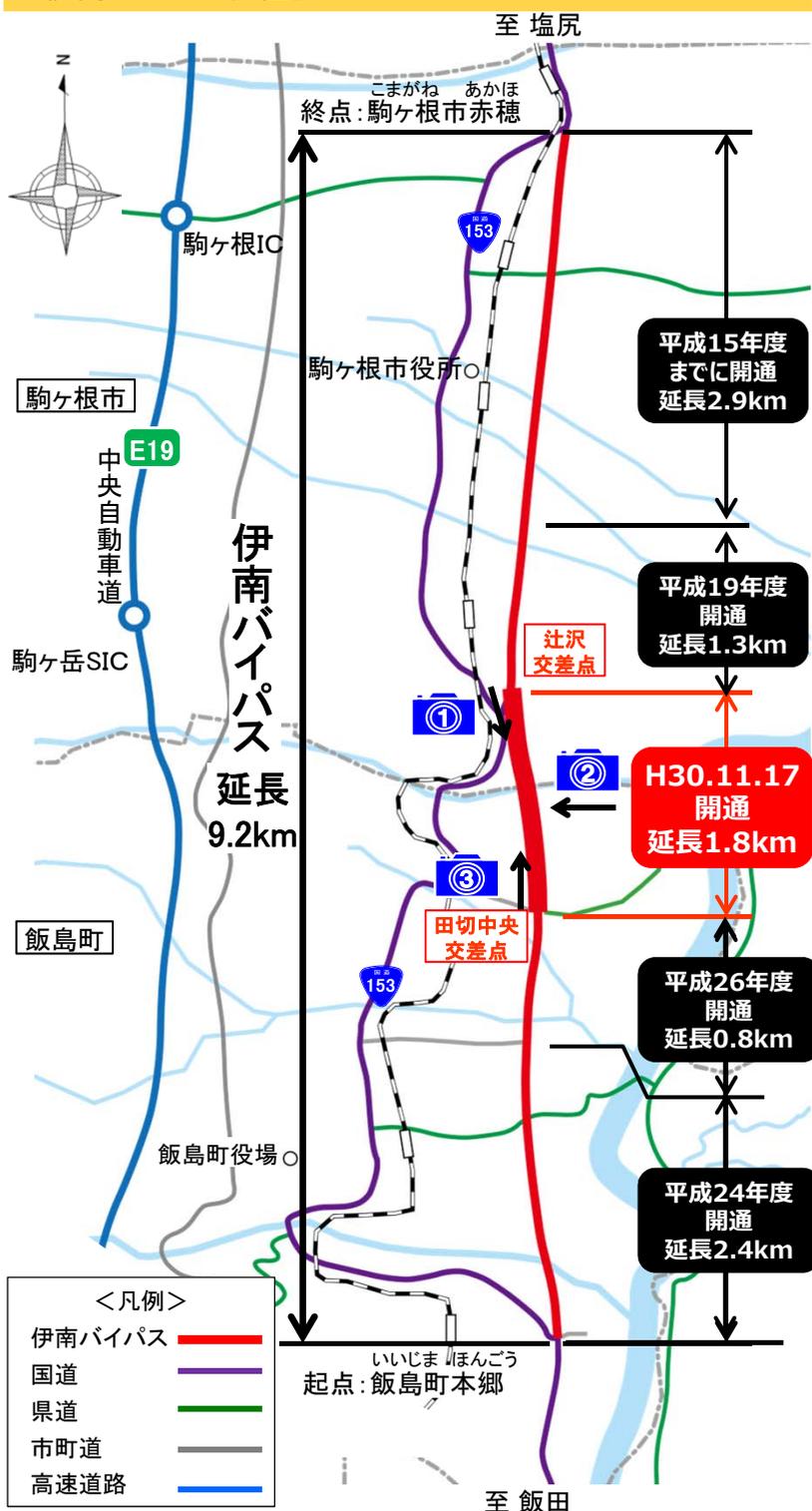
TEL:0265-53-7204 FAX:0265-53-7210

国道153号 伊南バイパスの事業概要

かみいな いいじまちほんごう こまがね あかほ

■伊南バイパスは、長野県上伊那郡飯島町本郷から長野県駒ヶ根市赤穂に至る延長9.2kmのバイパスであり、国道153号現道の交通混雑の緩和及び交通安全の確保を目的に整備を進めてきました。この度、田切中央交差点から辻沢交差点間の延長1.8kmの開通により、バイパス全線が開通します。

■伊南バイパス位置図



<辻沢交差点から飯田方面を望む>



(写真H30.10撮影)

<中央アルプス大橋を望む>



(写真H30.10撮影)

<田切中央交差点から塩尻方面を望む>

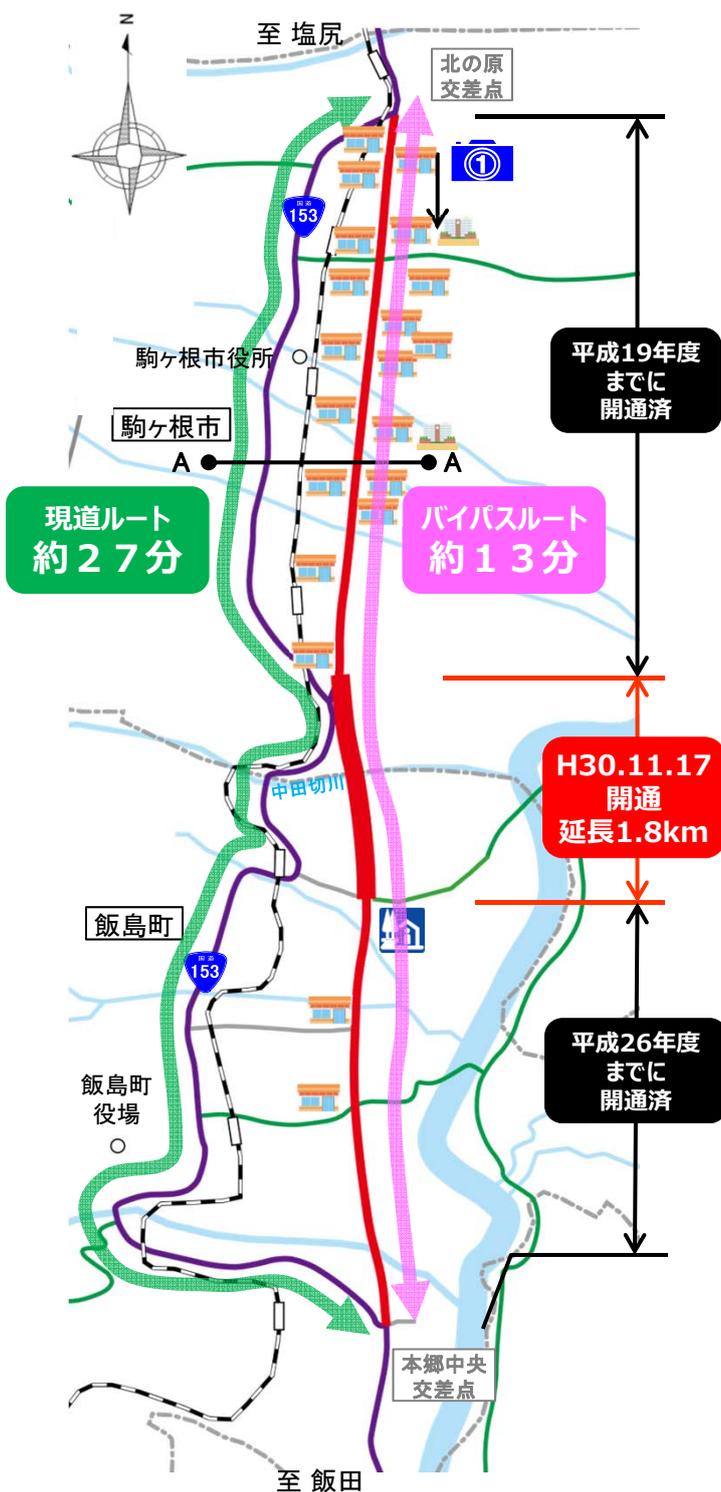


(写真H30.9撮影)

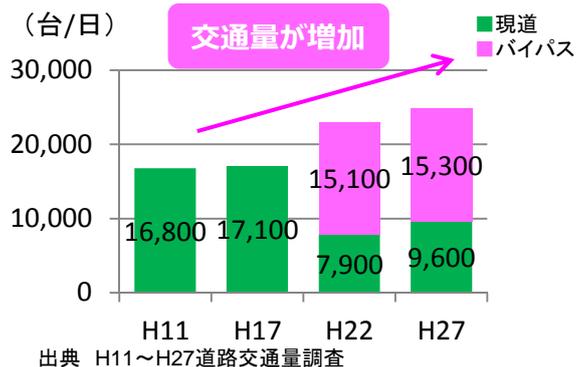
地域間の利便性の向上 ～バイパス沿線に店舗が立地～

- 伊南バイパスのこれまでの開通により、交通量が増加し、バイパス沿線の開発が進んでいます。
- 伊南バイパスの全線開通により、通過時間が約5割短縮され、地域間の利便性が向上します。

■ 伊南バイパス概要図



■ 国道153号の交通量の推移変化(A-A断面)



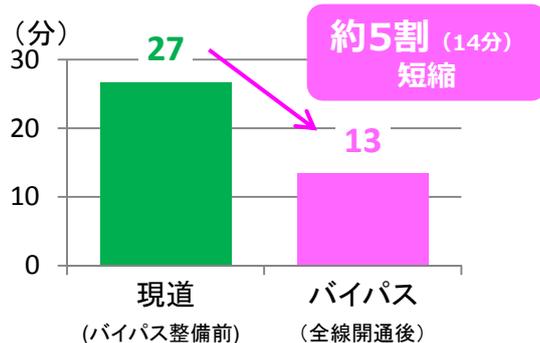
■ 伊南バイパス沿線の状況(駒ヶ根市内)



(写真H29.12撮影)

■ 通過時間の変化

北の原交差点～本郷中央交差点間の通過時間



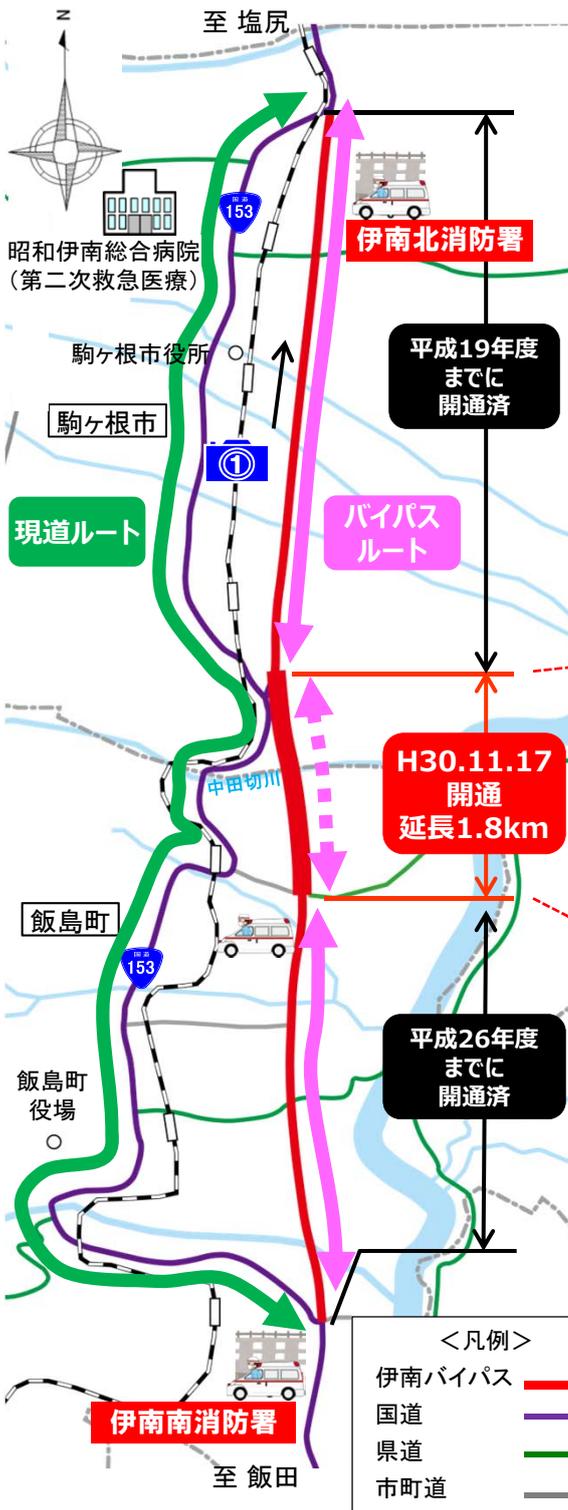
出典 現道: H11道路交通量調査平日混雑時旅行速度
バイパス: プロブデータ(H29.10平日平均)
伊南バイパスの未開通区間は設計速度

伊南バイパス ストック効果②

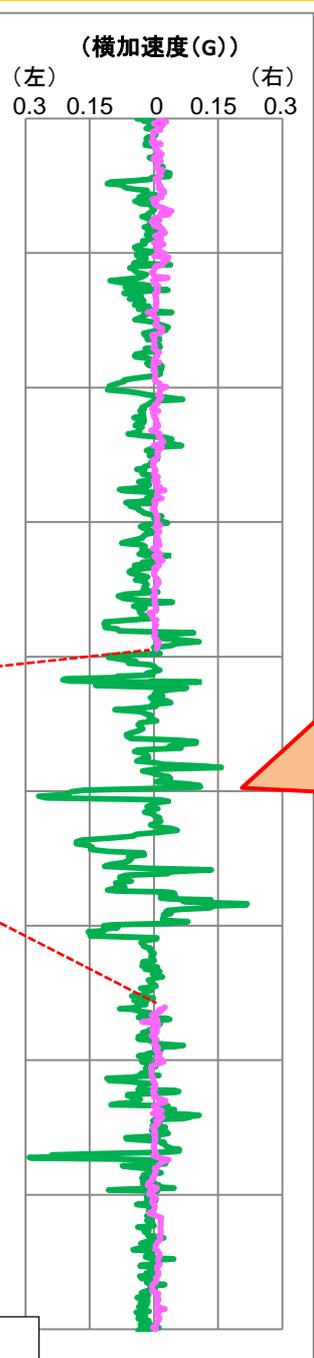
救急活動の支援 ～安全かつ迅速な緊急搬送に貢献～

- 国道153号現道では、急カーブ区間が多く存在し、搬送時における患者への負担が懸念されます。
- 伊南バイパスの全線開通により、急カーブ区間を回避することできるため、さらに安全で迅速な救急医療活動の支援が可能となります。

■ 伊南バイパス概要図



■ 国道153号現道と伊南バイパスの横加速度状況



救急活動に伊南バイパスを利用



国道153号現道
横加速度が0.15G以上の区間が多く、患者へ影響を与える可能性

伊南バイパス
急カーブ区間を回避し、患者への負担を軽減

※横加速度・・・進行方向と直角に発生する加速度

「曲線走行時に掛かる横Gが0.15G以上あると、最高血圧の変動量が10mmHgを超過し、搬送患者へ影響を与える可能性がある」

(「地域の医療を支援する道路構造の分析・評価」第27回日本道路会議)

・バイパスの開通によって、患者の負担は確実に軽減されていると感じる。
・現道のカーブ区間では処置がしにくかったが、バイパスでは安定して処置が行えるようになった。

(伊南南消防署)

横加速度調査
横加速度計を搭載した車両にて、伊南バイパスの起点から終点までを現道とバイパスで走行した結果 (調査日:平成30年8月28日)

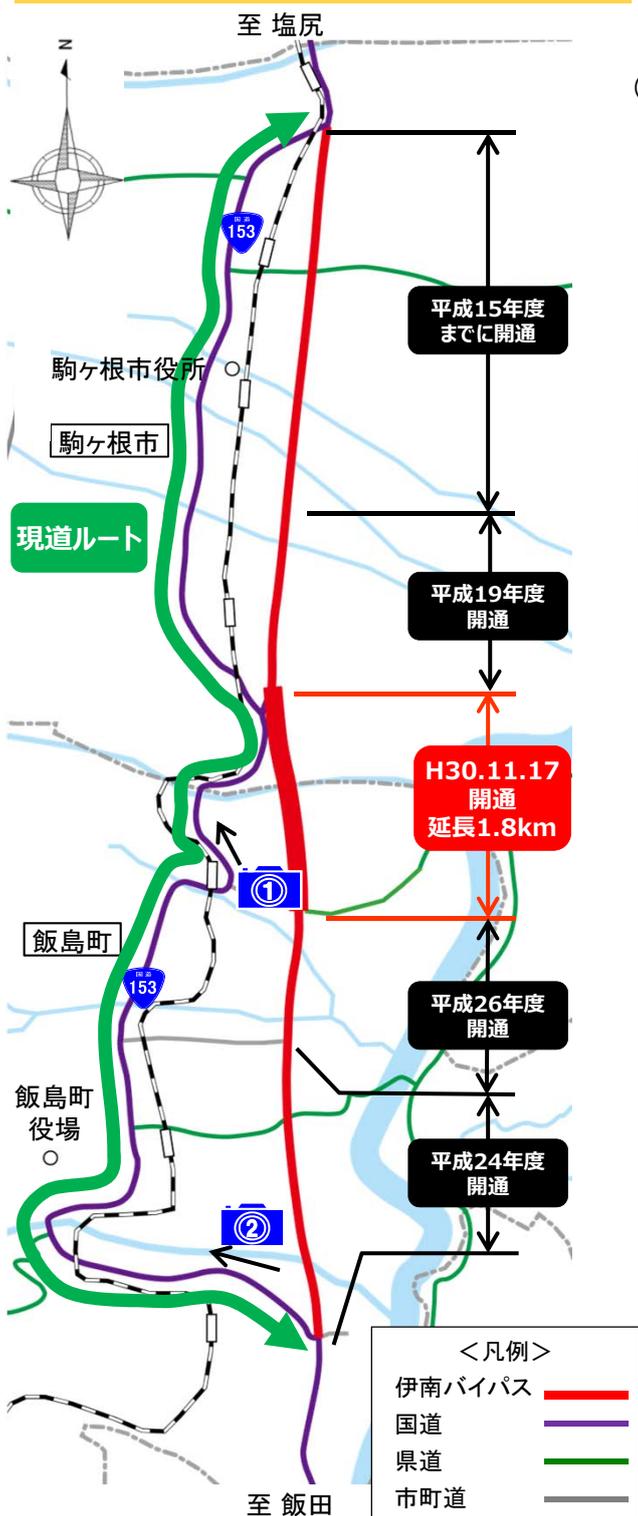


伊南バイパス ストック効果③

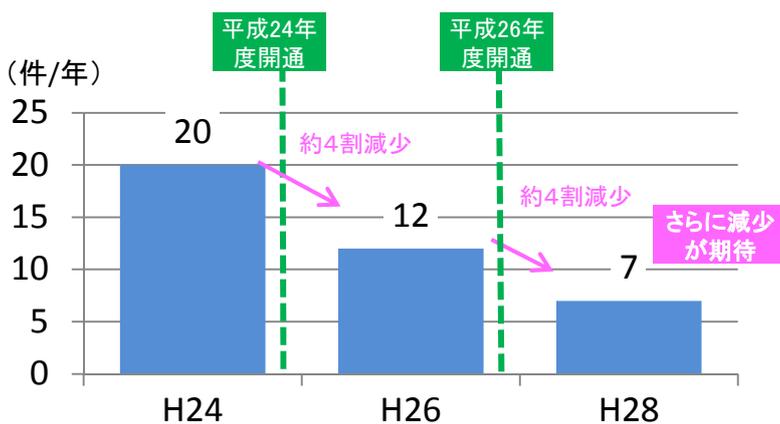
安全な交通の確保 ～現道区間の交通事故減少～

- 国道153号では、バイパス整備により交通事故が約5割減少したものの、未開通区間の現道では冬の凍結やスリップ事故が懸念されます。
- 伊南バイパスの全線開通により、さらなる事故件数の減少が期待されます。

■ 伊南バイパス概要図



■ 国道153号(現道ルート)事故件数の推移



■ 国道153号(現道)の事故発生状況と大型車のスタック状況



【警察署の声】

- ・国道153号現道のカーブ区間ではかなりスタック車両やスリップ事故が発生し、とても苦労した。開通済みのバイパス区間は直線でカーブがないため、このような心配がなくなった。
- ・現道区間は日陰となり凍結し、積雪とわだちにより、10tトラック同士がすれ違いできない。平成26年2月の積雪時にはかなり渋滞が発生した。



伊南バイパス ストック効果④

通学時の安全性が向上 ～国道153号の大型車減少～

- 平成26年度の開通により国道153号現道の大型車交通量の5割以上がバイパスに転換し、飯島町内の通学時の安全・安心に寄与しています。
- 全線開通により、さらなる通学時の安全・安心が期待されます。

■開通前後の国道153号現道の交通状況写真



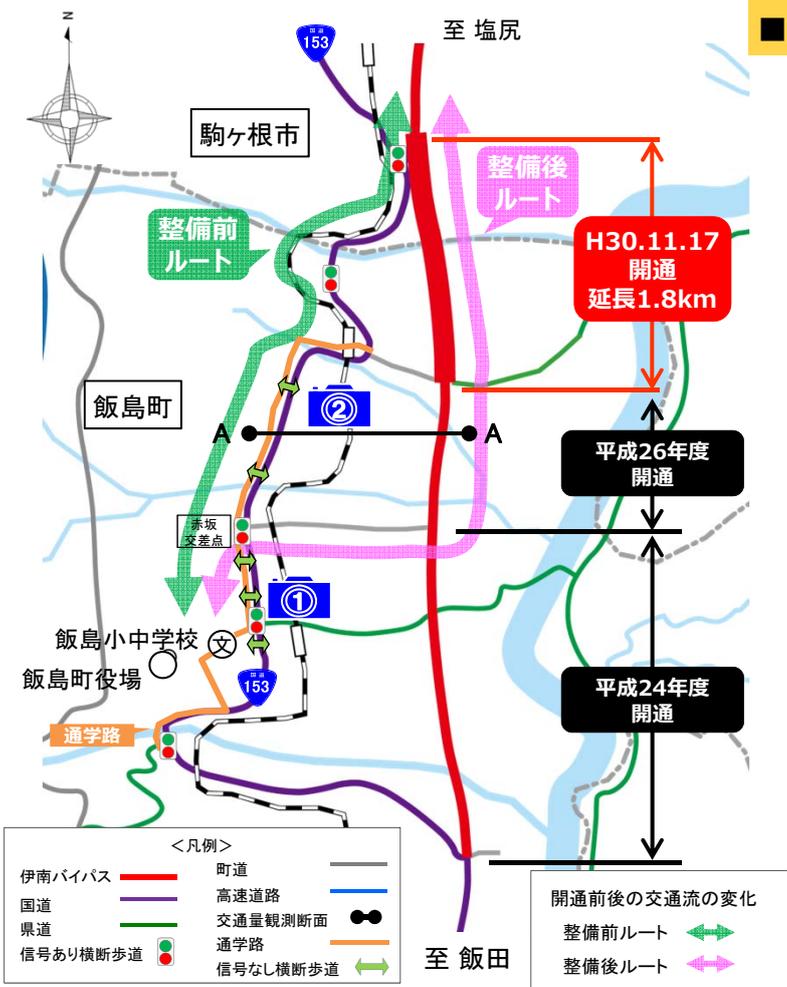
(開通前写真: H26.11.12撮影)



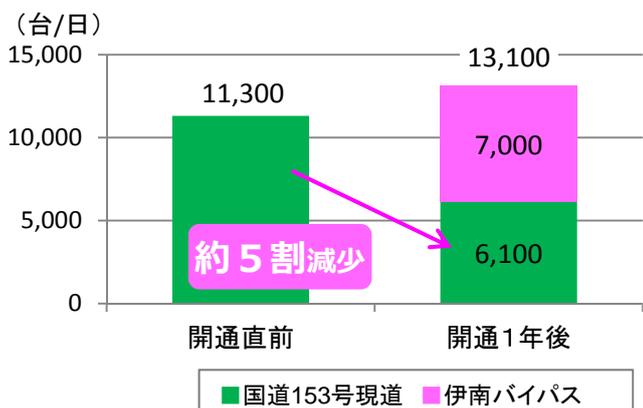
(開通後写真: H30.10.17撮影)

現道の交通量が減少し、横断の際の危険性が低減しました。

(教育委員会)



■開通前後の交通量の変化(A-A断面)

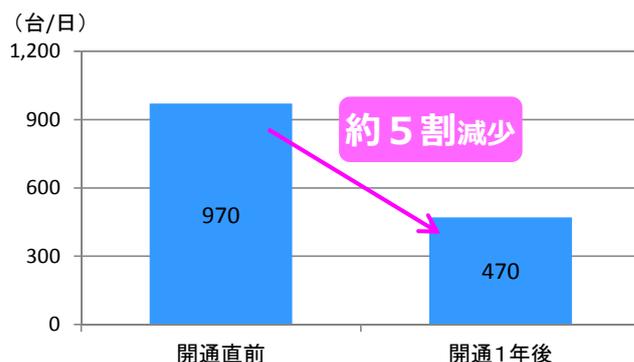


<調査データ>

開通直前 : H26. 11. 26 (7:00) ~ H26. 11. 27 (7:00)

開通1年後 : H27. 11. 18 (7:00) ~ H27. 11. 19 (7:00)

■開通前後の国道153号現道の大型車交通量

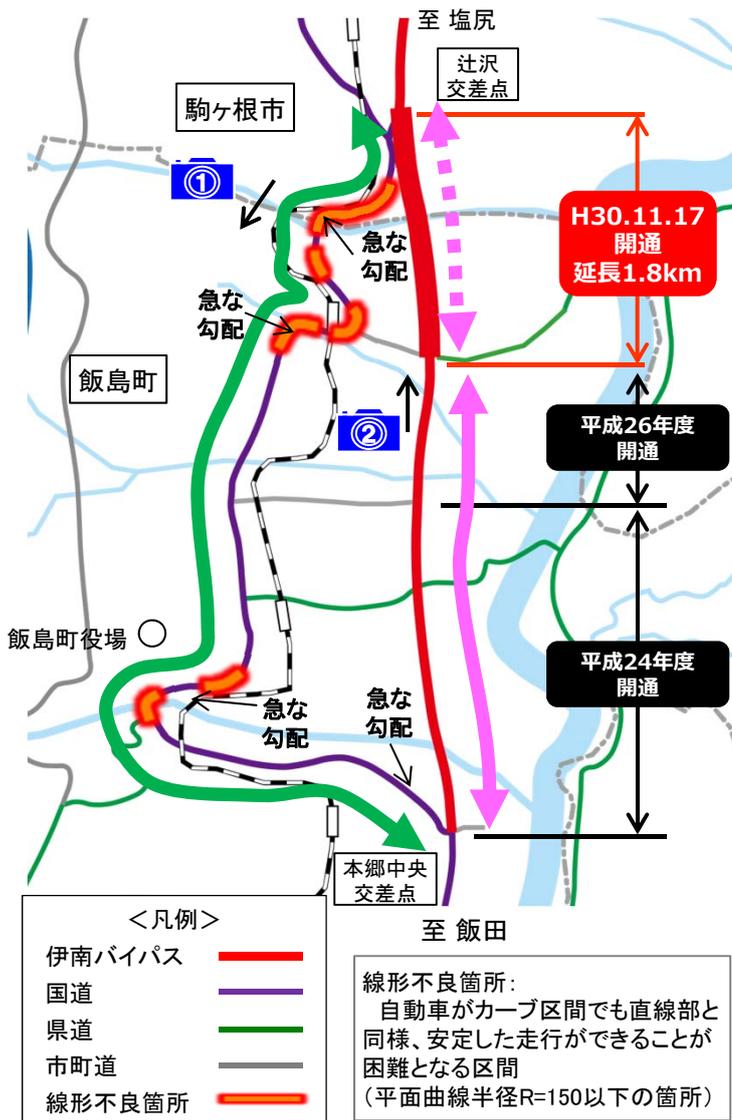


伊南バイパス ストック効果⑤

物流の効率化 ～線形不良箇所の回避～

- 国道153号現道の本郷中央交差点から辻沢交差点間は線形不良箇所や急な勾配区間が多くあり、物流搬送上課題が多い区間です。
- 伊南バイパスの整備により課題箇所を避けることができ、物流の効率化が期待されます。

■ 国道153号現道の線形不良箇所



■ 本郷中央交差点～辻沢交差点間の道路規格

道路規格	国道153号現道	伊南バイパス
最小平面線形	R=45	R=2000
最急縦断線形	5.3%	3.7%

国道153号現道のカーブ区間を走行する大型車



運送会社の声

- ・ 駒ヶ根から毎日飯田市の取引先まで伊南バイパスを利用して配送している。
- ・ 国道153号の現道は、勾配の急な坂を上らなければならないので、走りにくい。
- ・ この区間が開通すれば、急こう配やカーブを回避でき、便利になる。



■ 国道153号現道と伊南バイパスの縦断図

